

製品名: E2F-4/5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10256**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	44kDa

抗原情報

遺伝子名	E2F4/E2F5
別名	E2F4; Transcription factor E2F4; E2F-4; E2F5; Transcription factor E2F5; E2F-5
遺伝子 ID	1874/1875
SwissProt ID	Q16254/Q15329
免疫原	抗血清はヒト E2F4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

背景

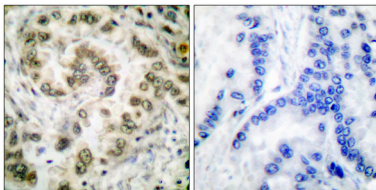
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写因子 E2F ファミリーのメンバーです。E2F ファミリーは、細胞周期の制御と腫瘍抑制タンパク質の作用において重要な役割を果たしており、また、小さな DNA 腫瘍ウイルスの形質転換タンパク質の標的でもあり

ます。E2F タンパク質は、ファミリーのほとんどのメンバーに見られる進化的に保存された複数のドメインを含んでいます。これらのドメインには、DNA 結合ドメイン、分化制御転写因子タンパク質 (DP) との相互作用を決定する二量体化ドメイン、酸性アミノ酸に富む転写活性化ドメイン、そして転写活性化ドメイン内に埋め込まれた腫瘍抑制タンパク質関連ドメインが含まれます。このタンパク質は、pRB、p107、p130 の 3 つの腫瘍抑制タンパク質すべてに結合しますが、特に最後の 2 つとの親和性が高くなっています。増殖関連遺伝子の発現を抑制する上で重要な役割を果たしている。機能:E2F4 のポリ Ser 領域は多型性があり、Ser の数は集団内で異なっている (8~17)。この変異は腫瘍形成と関連している可能性がある。PTM: 生体内で異なるリン酸化を受ける。類似性: E2F/DP ファミリーに属する。サブユニット: DRTF1/E2F 転写因子複合体の構成要素。DP-1 と協調的に E2F 部位に結合する。E2F4/DP-1 二量体は、E2F 転写活性化ドメインを阻害するポケットタンパク質 RBL1 と優先的に相互作用する。網膜芽細胞腫タンパク質 RB1 とのより低い親和性相互作用が見出されている。TRRAP と相互作用し、TRRAP はヒストンアセチルトランスフェラーゼ複合体との相互作用を媒介し、転写活性化につながると考えられる。HCFC1 と相互作用する。DREAM 複合体 (LINC 複合体とも呼ばれる) の構成要素で、少なくとも E2F4、E2F5、LIN9、LIN37、LIN52、LIN54、MYBL1、MYBL2、RBL1、RBL2、RBBP4、TFDP1、TFDP2 から構成されます。この複合体は静止細胞に存在し、細胞周期依存性遺伝子の発現を抑制します。S 期には、LIN9、LIN37、LIN52、LIN54 が MYBL2 に結合するサブ複合体を形成すると解離します。組織特異性: 心臓、脳、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、膵臓など、検査したすべての組織で検出されました。、

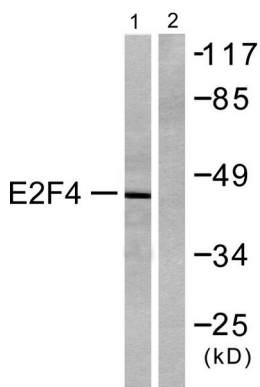
研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M DNA;TGF-ベータ;

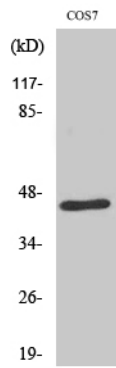
画像データ



E2F4 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



COS7 細胞ライセートの E2F4 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



E2F-4/5 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタン ブロット分析。